

JAMトピックス

シンポジウム「ビルマ民主化のゆくえ」 弾圧 今回はひどい

ミャンマー軍事クーデターから1年



左から、日本に逃れてきたティンウィンさん、拘束・解放された北角さん、
在日ビルマ人問題に取り組むポンラインさん

2月1日、ミャンマー国軍による軍事クーデターから一年になるのを節目に、JAMに加盟する在日ビルマ市民労働組合(FWUBC)が、シンポジウム(オンライン併用で約100人が参加)を開催した。

現地のデモや応援する市民の様子を進行役の港町診療所・山村医師が写真で紹介、1988年の民主化運動を経験しているティンウィンアクバルさんは、弾圧が過去と比べて「今回はひどい、とてもひどい」と語った。

発生時にヤンゴンに滞在していたジャーナリスト北角裕樹さんは、今回の抗議行動の中心となっているのは、民主化時代に育ったZ世代の若者で、国軍は彼らの民主的な抗議デモを容赦なく弾圧したと報告した。

参加者からの「労働組合ができること」という質問に対して「軍事政権の資金を断つ経済制裁を日本がするよう圧力を加えること」とFWUBC副会長のポンラインさんは訴えた。



市民の盾はPOLICE(軍・警察)ではなくPEOPLE(人)



軍は実弾を使用、右端は銃火器の炎